

令和8年度

施政方針



青淵渋沢栄一先生像

祭魚洞渋沢敬三先生像

深谷市

本日ここに、令和8年深谷市議会第1回定例会を招集いたしましたところ、議員各位にはご参会を賜り、令和8年度一般会計当初予算案をはじめ、市政の重要案件についてご審議いただきますことに、心から感謝申し上げます。

私は、去る1月25日に執行されました深谷市長選挙におきまして、再び市政を担うこととなりました。市民の皆様からいただいたご信任は、4期16年にわたる市政運営に対する一定の評価をいただけた、その結果であると受け止めており、私にとって大きな励みであると同時に、その責任の重さを改めて自覚し、身の引き締まる思いであります。

今回の選挙戦を通して、私は、本市が歩んできた時間の重みを、改めて強く感じておりました。令和8年1月は、本市誕生から、ちょうど20年という大きな節目を迎えたが、今日の深谷市は、何代にもわたって、先人が地域を守り育ててこられた歩みの積み重ねの上に成り立っています。その劳苦と志に深く敬意を表するとともに、その歩みを次の世代へ確かにつないでいくことが、私に託された使命であると確信しております。初心を忘れることなく、これまで以上に、取り組み一つひとつを丁寧に進めてまいります。

私が市政に向き合い続けてきた原動力は、就任当初から変わることのない「だって深谷が好きだから」という思いであり、そして今、その思いを「責任と覚悟」をもって施策として具体化していくことが、再び市政を託された者の務めであると考えております。

渋沢栄一翁が生涯貫いた「合本主義」の精神は、市民や企業をはじめ各主体が力を合わせ、まちの未来を切り拓くという、市政運営の基本姿勢につながるものと確信しております。私は、市民の皆様とともに歩む市政を、これからも大切にしてまいります。

議員各位をはじめ、市民の皆様には、深谷市のさらなる発展に向け、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年は、不安定な国際情勢や原材料価格の上昇などを背景に物価高騰が長期化し、コメをはじめとする食料品費や光熱費など生活に必要な経費の上昇が、市民生活に大きな影響を与えた一年でありました。加えて、人件費や物流コストの増加は、事業者の経営環境にも影響を及ぼし、地域経済全体としても厳しい状況が続いております。

こうした中、本市では、市民の暮らしを維持し、さらに向上することを最優先に、各種の支援金交付や地域通貨を活用した消費喚起策など、物価高騰への対応を機動的に実施し、市民生活の下支えとともに市内経済の活性化に取り組んでまいりました。さらに、昨年12月25日に開催いたしました臨時会においては、本市の物価高騰対策をご議決いただき、国の重点支援地方交付金等の制度を最大限活用して、総額21億円を超える対策事業を実施することといたしました。具体的には、水道基本料金の6か月分減額や地域通貨ネギーの30%ポイント還元に加えて、子育て世帯を対象としたこども一人当たり2万円の給付、ひとり親世帯や高齢者への地域通貨ネギーの支給など、支援の効果が広く行きわたるよう効果的な施策を講じました。

加えて、市内農業者への支援金のほか、私立保育園、児童養護施設、高齢者施設、障害者施設に対する光熱費及び食材料費に対する支援金を交付するなど、生活と経済の両面にバランスの取れた施策を進めているところであります。

このように、市民生活の維持向上を最優先としながらも、着実に市政の発展に向けた取り組みを進めてきたところであり、花園インターチェンジ拠点地域や栄一翁関連施設が観光と交流の拠点として成長しており、市の活性化につながっているものと考えております。また、保育料やこども医療費の無償化、給食費の負担軽減など、子育て支援策を積極的に進めてきたところであり、市民の安心と魅力の向上につながっていることを実感しております。

こうした取り組みの中で、令和7年を象徴する出来事が、「青淵渋沢栄一先生像」・「祭魚洞渋沢敬三先生像」の移設建立あります。11月11日に執り行われましたお披露目式当日は、30年前に青森の地で、この像の建立に尽力された故・杉本行雄氏のご子息である、成城大学の杉本義行学長にもご臨席を賜り、行雄氏が渋沢家に寄せた思いの一端に触ることができました。杉本学長は、父の観光事業が敬三先生の理念の影響を強く受けていたことに触れ、観光とは「光を観る」、すなわちその土地の素晴らしい“光”を見出し、それを観る営みであるという言葉を大切にしてきたと語られました。

私は、深谷の“光”である歴史や文化をはじめとした様々な魅力を磨き上げ、発信し、市民皆様の誇りにつなげていくことが、市政の大切な役割で

あると改めて感じました。また、銅像の移設建立を契機に、栄一翁の精神や敬三先生の教えを大切にし、今後のまちづくりに生かしながら未来へと継承していくことが重要であり、より良い深谷市になるよう市民の皆様とともに歩みを進めてまいります。

それでは、議会開会の冒頭にあたり、私が5期目の市政運営に臨む基本的な姿勢を申し述べたいと存じます。

これまでの物価高騰への対応や銅像移設を契機とした渋沢家の思いを通じて、私は、市政において重要なことは、人々の暮らしに寄り添い持続可能な暮らしを創造するとともに、過去から託された志を未来へとつないでいくことであると、改めて強く実感いたしました。だからこそ私は、目の前の課題に誠実に向き合い、次の時代を見据えた市政運営に臨むべく、決意を新たにしたところであります。

振り返れば、これまでの市政運営は、決して平坦な道のりではありませんでしたが、それでも前に進むことができたのは、「だって深谷が好きだから」にはかなりません。4期16年の任期を経た今も、やり切ったという思いではなく、むしろ、ふるさと深谷をもう一步前へ進めたいとの思いを、これまで以上に強くしております。

奇しくも令和8年度は、第2次深谷市総合計画後期基本計画が終盤を迎える、次年度の総仕上げに向けて取り組みを加速させるとともに、次なる第3次深谷市総合計画につながる重要な年であります。

今後の市政運営にあたりましては、こうした思いを具体的な施策として幅広く展開し、計画的に、着実に前に進めるべく、引き続き総合計画の推進と次期計画の策定に取り組んでまいる所存であります。

さて、私は、市長5期目のスタートにあたり、次の7つの視点から、重点的に取り組む施策をお示しし、その実現を市民の皆様にお約束いたしました。

第1に、「安心につながる子育て支援」といたしまして、小児科オンライン診療の実施や、県内最大級のこども館設置、

第2に、「次世代を担う子どもたちのための教育の充実」といたしまして、学校給食費の無償化や、中学校に引き続いて小学校体育館にエアコンの設置、

第3に、「日々の生活を支えるくらしの安心」といたしまして、「くるりん」の利便性向上や、自治会との協働により生活課題を解決するため、地域政策アドバイザーを設置、

第4に、「将来を見据えた快適な都市基盤整備」といたしまして、仙元山公園の再整備や、原郷上野台線アンダーパスの開通、

第5に、「地域経済の活性化に向けた産業の発展」といたしまして、トップセールスの推進や、アグリテック集積・地域通貨の取り組みなどを核とした「^{もう}儲かる農業都市ふかや」の実現、

第6に、「誇りあるまちづくりにつながる偉人の顕彰」といたしまして、ホフマン輪窯内における魅力的なレストランの開業や、渋沢敬三先生の顕彰、

最後、第7に、「市民とともに進める持続可能な行財政運営」といたしまして、深谷市単独による「ごみ処理」及び「介護保険」の実施や、将来世代に負担を残さないための公共施設再編、

であります。

私は、これら7つの視点を今後の市政運営の指針とし、市民の皆様から
負託されたという「責任」と、諸課題を解決に導き、市政をしっかりと前に
進めるという「覚悟」をもって、将来世代につなぐまちづくりを進めてまい
る所存であります。

こうした考えを基本といたしまして、令和8年度の市政運営にあたり、
次の3つの観点から、生活者重視の取り組みの展開を図ることを主眼に、予
算編成を行ったところであります。

第1に「いのちと健康のために」であります。

少子高齢化が進む中、安心して子どもを生み育てるための支援や、健康
寿命の延伸は益々重要性を増しております。安心した暮らしを続けていくた
めに、身近な医療や健康を支える体制を整えることは、市民皆様の共通の願
いであります。私は、これまで医療と子育て、健康づくりを一体で支える
取り組みを進めてまいりました。令和8年度においては、小児科オンライン
診療の本格的な実施や産婦人科オンライン医療相談の開始、不妊治療費補助
の拡充など、医療と子育てを一体で支える施策を進めてまいります。また、
高齢者向けに補聴器購入費の補助制度を創設するなど、子どもから高齢者ま
でを支える取り組みを着実に実施してまいります。

第2に「安心できる暮らしのために」であります。

市民生活の安全・安心を確保するためには、激甚化・頻発化する自然災害への備えに加え、事故や急病時の救急体制を充実させていくことが肝要であります。令和8年度には、災害時の備蓄品等を保管する、仮称・中央防災倉庫の整備に向けた設計を進めるとともに、30年以上が経過し時代に即した設備が整備されていない花園分署及び上柴分署について、建て替えに向けた用地取得や設計に着手していくほか、マイナ保険証を活用した「マイナ救急」を導入し、より円滑で迅速な救急対応につなげるなど、防災・救急体制の強化を図ってまいります。

最後、第3に「便利で快適な暮らしのために」であります。

日常生活の利便性を高め、移動や学び、子育ての環境や質を充実させていくことは、まちの魅力向上につながります。令和8年度は、高齢者や障害のある方をはじめとした市民の移動を支えるため、コミュニティバス「くるりん」の利便性向上を図ってまいります。再編後の新運行は令和9年度からとなりますが、令和8年度はそのための各種準備を進め、新たな予約システムの導入とコールセンターの充実を図ってまいります。さらに、再編後は自宅から乗り降りが可能となるデマンドタクシーを導入し、これまで以上にスマートな運行・予約が可能となります。

また、国済寺地区と上柴地区を結ぶ原郷上野台線アンダーパスについて、令和9年度中の開通に向けて整備を進めてまいります。さらに、学びと子育ての質を高める新たな拠点として、「こどもふっかパーク」と「ふかや幼稚園」の複合施設がオープンを迎えるほか、近年の夏の猛暑への対策を

はじめ、災害時には、避難所として快適な生活環境を確保できるよう、中学校に引き続き、小学校体育館のエアコン設置を進めてまいります。

以上、3つの観点から、令和8年度における市政運営を進めることとし、これまで以上に現場主義を貫き^{つらぬ}、市民の皆様とともに考え、ともに行動する市政を、これからも一歩一歩積み重ねてまいります。その根底にあるのは、深谷への変わらぬ愛着と、困難な課題にも正面から向き合い、責任と覚悟をもって前に進むという私自身の政治姿勢であります。議員各位をはじめ市民の皆様には引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、本日ご提案いたします令和8年度予算案の概要につきましてご説明申し上げます。

まず、歳入の根幹である市税につきましては、景気の回復基調を受け、190億円台を見込んでおります。

一方、歳出につきましては、福祉や医療などに係る扶助費の伸びや、物価高騰による各種経費増への対応などから、増加傾向が続いております。

このような状況下におきまして、令和8年度は、長引く物価高騰の影響下において、市民生活を守り、市民サービスを維持することを念頭に置くとともに、第2次深谷市総合計画後期基本計画が4年目と終盤を迎えることから、確かな成果に結びつけるための予算として編成したところであります。

その結果、令和8年度の予算案は、一般会計では過去最大となる669億2,677万3千円、前年度に比べ2.3%の増、また、これに特別会計及び

企業会計を合わせた市の全会計の総額は、1,000億6,766万6千円、前年度に比べ1.8%の増となり、初めて1,000億円を超える過去最大となったところであります。

令和8年度一般会計予算案の主な内容であります、まず、歳入のうち市税につきましては、197億9,364万円、前年度に比べ2.5%の増を見込んだところであります。また、地方交付税につきましては、91億4,130万円、前年度に比べ7.4%の増を見込んだところであります。

なお、各種基金からの繰入金や市債につきましては、事業執行のために所要の金額を見込んだところであります。

次に、歳出の主な内容であります、第2次深谷市総合計画後期基本計画に掲げた「まちのイメージ」に沿って、ご説明申し上げます。

はじめに、子育て・保健・福祉の分野「健康でいきいきと暮らせるまち」について申し上げます。

子育て支援に関しましては、かねてより建設を進めてまいりました県内最大級の子育て拠点である「こどもふっかパーク」が、4月にいよいよオープンし、子育てを支える魅力ある拠点を創出してまいります。

また、引き続き保育料の完全無償化や0歳児子育て支援金の交付を行い子育て世帯の負担軽減を図るとともに、新たに養育環境等に課題を抱える主に学齢期以降の児童等に居場所を提供し、虐待防止と健全育成を図るため「児童育成支援拠点」の設置に向けた取り組みを進めてまいります。

保健、健康づくりに関しましては、小児科オンライン診療や産婦人科オンライン医療相談のほか、新生児及び乳児に対してRSウイルス感染症による発症や重症化を予防するため、妊婦を対象とした公費による予防接種を開始してまいります。

また、新たに1か月児健康診査の実施や、不妊治療の対象者及び補助回数の拡充など、医療と子育てを一体で支える施策に取り組んでまいります。

地域福祉に関しましては、包括的な相談支援体制として整えた、福祉総合相談窓口「ふくしの窓口」をより一層活用し、日々複雑化、複合化していく市民の支援ニーズにきめ細かに対応してまいります。

高齢者福祉に関しましては、高齢者が住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるよう、各種サービスの充実と環境の整備を推進するため、次期「高齢者福祉計画」を策定してまいります。

また、高齢者の健康を守る施策として、新たに65歳以上の方を対象に補聴器購入費用の補助を実施し、高齢者の認知症予防と地域社会への参加を促進してまいります。

加えて、令和8年度の「ねんりんピック彩の国さいたま^{にせんにじゅうろく}2026」ゲートボール競技の仙元山公園での開催に向け、準備を進めてまいります。

障害者福祉に関しましては、障害者施策を総合的に推進する「第7次深谷市障害者プラン」を策定してまいります。

また、障害者の経済的な負担軽減を図るため、引き続き自動車などの燃料費や医療費の助成、各種手当の交付等を実施してまいります。

続きまして、教育・文化の分野「次代を担う人と文化を育むまち」について申し上げます。

幼児教育に関しましては、「旧深谷幼稚園」、「深谷西幼稚園」、「藤沢幼稚園」、「花園幼稚園」を再編し、「ふかや幼稚園」を新たに開園してまいります。

学校教育に関しましては、深谷市出身の偉人や深谷市親善大使などを掲載した「こころざし人物伝」^{じんぶつでん}を刊行し、「栄一翁みらい宣言」や「こころざし読本」^{とくほん}等と併せて、ふるさと教育のさらなる推進を図るとともに、学習に対し課題を抱えている児童を中心に指導を実施する「学習支援員」の増員や「学習ドリルアプリ」の活用により、児童・生徒の学力向上を図ってまいります。

また、不登校児童・生徒が、友達や社会とつながるためのきっかけとなる屋外体験型の事業として「ふっかちゃんふれあいキャンプ」を引き続き実施してまいります。

そのほか、物価高騰に伴う保護者負担の軽減を図るため、小中学校の給食費の無償化を実施してまいります。

学校施設の整備に関しましては、中学校に引き続き、公立小学校全19校の体育館にエアコンを設置してまいります。また、各小中学校のトイレの洋式化について、引き続き計画的に進めてまいります。

公民館に関しましても、猛暑対策、災害時の避難所としての活用を想定して、「藤沢」、「幡羅」、「明戸」、「大寄」、「豊里」及び「南」の市内6公民館の体育室について、エアコン設置に向けた設計業務を進めるとともに、

令和9年度までにすべての公民館体育室への整備が完了するよう、残る上柴公民館について、施設所有者との協議を進めてまいります。

渋沢栄一翁関連事業に関しましては、引き続き「渋沢栄一ひとつくりカレッジ」等を開催し、紙幣や栄一翁ゆかりの企業や団体と連携して講演会や物産展等を開催することで、誘客による地域の活性化を推進するほか、新たに制定した「深谷市民の日」の周知啓発を行うなど、「渋沢栄一＝^{イコール}深谷市」というイメージのより一層の定着を図ってまいります。

また、深谷市指定史跡の尾高惇忠生家の耐震診断及び測量業務を行い、今後の施設活用の検討を図ってまいります。

文化振興に関しましては、引き続き国の重要文化財であるホフマン輪窯管理活用棟の建設工事を進めてまいります。また、管理活用棟内にシアタースペース等を設けるほか、ホフマン輪窯内に展示スペース及び全国初の取り組みとなるレストランを設置し、魅力ある市の観光拠点として整備することで地域の発展につなげてまいります。

続きまして、産業振興の分野「活力とぎわいにあふれるまち」について申し上げます。

農業振興や農畜産物のPRに関しては、アグリテックアワードで優秀な成績を収めた企業と連携し、市の農業従事者の減少や耕作放棄地の拡大といった課題解決につなげていく取り組みを実施してまいります。

また、深谷グリーンパークにつきましては、さらなる魅力あるレジャー施設として、民間活力の導入を前提とした再整備を図るため、「深谷グリーンパーク再整備アドバイザリー業務」を実施してまいります。

さらに、様々な機会を通じて、深谷ねぎや深谷ブロッコリーなどの「ふかやの野菜」をはじめとした農畜産物等を、^{みずか}私自らトップセールスにより広くPRすることで、深谷産ブランドのイメージ向上を図ってまいります。

商工業の振興に関しましては、起業に要する経費への補助を継続とともに、中小企業による経営革新計画の策定を促進するため、引き続き奨励金を交付し、市内産業の振興を図ってまいります。

また、雇用の創出等による市内経済の活性化を図るため、寄居スマートインターチェンジ近接地区における開発の可能性を調査するための「産業集積拠点基本計画」を策定してまいります。

産業価値の創出に関しましては、地域通貨ネギーを活用した、ネギーダンボやネギーチャレンジなどの取り組みにより、市民の行動変容を促しながら、地域課題の解決と市内経済の活性化を図ってまいります。

続きまして、暮らし・環境の分野「安心とやすらぎを感じられるまち」について申し上げます。

防災対策に関しましては、仮称・中央防災倉庫の整備に向けた設計に着手するほか、引き続き、各種訓練の充実や防災情報の周知に努め、市民の皆様の命を守る取り組みを行ってまいります。

消防・救急体制に関しましては、「マイナ救急」制度の導入や、花園分署の建設工事及び上柴分署の建て替えに向けた設計業務に着手してまいります。

防犯に関しましては、引き続き、防犯に有効な設備の設置にかかる費用を助成し、自助による防犯対策と防犯意識の醸成を図ってまいります。

空き家対策に関しましては、引き続き農地付き空き家に対するリフォーム補助を推進するとともに、老朽化した危険な空き家の解体に対する補助や、地域活性化の用途として空き家を利用する際の改修費を補助する「深谷市空き家利活用補助金」により空き家の解消及び利活用を図ってまいります。

自治会活動に関する支援に関しましては、一般照明用蛍光ランプの製造・輸出入が廃止されることに伴い、自治会館のＬＥＤ化などに係る改修費用の補助を増額し、自治会活動の経済的な支援を行ってまいります。

環境対策に関しましては、本市における環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、次期「深谷市環境基本計画」の策定に着手してまいります。

また、引き続き「ふかやｅパワー株式会社」と連携して、エネルギーの地産地消に向けた取り組みを進めるほか、住宅用省エネ設備などの購入に対し補助金を交付するなど、ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みを進めてまいります。

ごみ処理に関しましては、誤って可燃ごみなどに混入すると、収集・破碎・選別の過程で発火し火災の原因となるリチウム蓄電池等について、適切に

回収する体制を構築し、火災防止と安全・安心なごみ処理につなげてまいります。

続きまして、都市・生活基盤の分野「快適で利便性の高いまち」について申し上げます。

市街地整備をはじめとした住環境の形成に関しましては、引き続き都市計画マスタープランや立地適正化計画に基づき、都市基盤整備と土地利用の誘導を図ってまいります。

水道の整備に関しましては、引き続き、災害時に重要な役割を担う医療機関や防災拠点への水道管の耐震化及び老朽管の更新を進めてまいります。

また、水道水の安定供給のため、本田配水場の機能拡張を進めてまいります。

下水道の整備に関しましては、引き続き、八幡地区の整備を進めてまいります。

また、折之口地区、上郷地区及び中郷地区の農業集落排水処理施設を公共下水道へ接続してまいります。

さらに、ストックマネジメント計画に基づき、処理施設の老朽化及び耐震化対策を実施するとともに、主要幹線管路の点検調査を実施し、管路改築に着手してまいります。

農業集落排水の整備に関しましては、本田ヶ谷地区の農業集落排水処理施設の機能強化を進めてまいります。

道路の整備に関しては、原郷上野台線アンダーパスについて、上柴側と国済寺側のアプローチ部の工事を実施し、令和9年度中の開通に向け整備を進めてまいります。

橋りょうの整備に関しては、引き続き長寿命化修繕計画に基づき、優先度の高い橋りょうから計画的に修繕を実施し、安全性を確保してまいります。

公園の整備に関しては、仙元山公園エリアのさらなる魅力向上のため、「仙元山公園再整備基本計画」を策定してまいります。

河川の整備と排水対策に関しては、令和7年度実施の中瀬地内における雨水調節池工事に引き続き、その上流部分の暗渠部におけるボトルネック解消のための改修工事や、新戒地内における雨水調節池整備のための用地取得など、豊里地区の冠水リスクの改善を図ってまいります。

公共交通に関しては、コミュニティバス「くるリン」について、新たな予約システムの導入やコールセンターの充実に向けた準備を進めるとともに、引き続き「深谷自動運転実装コンソーシアム」と連携のもと、安全に配慮しながら自動運転バスの実証実験を実施してまいります。

加えて、引き続きJR東日本高崎支社との岡部駅橋上化に向けた協議を進めてまいります。

最後に、協働・行政経営の分野「みんなで創る協働のまち」について申し上げます。

人権問題に関しましては、引き続き、関係機関と連携した犯罪被害者への支援や、多様性を尊重し、差別や偏見などの課題に対応していくため、人権セミナーなどの各種取り組みを行ってまいります。

移住定住に関しましては、引き続きまちづくりを通して、市の魅力を高めることを基本としつつ、「移住セミナー」を通じた深谷市の魅力発信や、移住支援金などの支援制度により、移住定住の促進を図ってまいります。

情報発信に関しましては、引き続き、市ホームページや広報ふかやに加え、「深谷市公式LINE」など様々な手段を活用して、市民のニーズに合わせた旬な情報を発信してまいります。

協働のまちづくりに関しましては、引き続き、ウェブサイト「^{わざかつ}技活」による人材バンク登録者の動画紹介などの取り組みを進めてまいります。

シティセールスに関しましては、深谷市イメージキャラクターである「ふっかちゃん」や「深谷ねぎらいの日」を通じて、より一層本市の魅力を発信し盛り上げられるようPRに取り組んでまいります。

行政デジタル化の推進に関しましては、全国的な取り組みであるシステムの標準化業務を確実に進めるとともに、「書かない窓口」の充実や各種手続きの「オンライン申請」の普及を進め、市民の皆様の利便性の向上を図ってまいります。

行財政運営の推進に関しましては、令和10年度からの深谷市のまちづくりの指針となる「第3次深谷市総合計画」の策定に着手してまいります。

また、増加するマイナンバーカードの業務に的確に対応するため、マイナンバーカード取扱窓口をキララ上柴行政サービスセンターに開設いたします。

加えて、新たな公共施設予約システムの運用を開始いたします。このシステムには、電子決済機能を導入し、施設の予約から支払いまでオンライン上で完結できるなど、公共施設の予約がよりスムーズとなることで、利用者の利便性の向上につなげてまいります。

さらに、自主財源の確保を積極的に進めるため、引き続き企業版及び個人版のふるさと納税制度などを有効に活用し、持続可能な行財政運営を推進してまいります。

以上、令和8年度の歳出の主な内容について申し述べました。

榮一翁は、道徳と経済は決して相反するものではなく、両立してこそ社会は健全に発展すると説かれ、道徳なき経済は成り立たず、経済なき道徳もまた現実を支え得ないという、理想と現実の双方を見据える姿勢の大切さを今に伝えていると言われております。

私は、市政運営において大切なことが、この考えに凝縮ぎょうしゅくされていると感じております。市民生活の持続性を第一に、現実的な施策を着実に進めると同時に、深谷市が大切にしてきた理念や誇りを決して見失わず前進すること、それこそが市政を預かる者に課せられた責務であると確信しております。

再び市政を担うこととなった今、私は、これまでの実績に安住することなく、次の一步を踏み出してまいります。その原点にあるのは、就任以来、変わることのない「だって深谷が好きだから」、そして、歩み続ける原動力は、「やっぱり深谷が好きだから」という思いであります。市民の皆様とともに築いてきた歩みを大切にしながら、次の世代に誇れる深谷市を未来へと引き継ぐため、私は全力で市政運営に取り組んでまいりますので、議員並びに市民の皆様のより一層のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願ひ申し上げます。

以上で、私の令和8年度施政方針の表明といたします。

※この文章は口述筆記ではありません。

表現その他に若干の変更がありました場合は、ご了承ください。

